

## 令和7年度 暮らしと幸福感に関するアンケート 調査報告書がまとまりました

主催	加古川市
日時	令和7年11月下旬
場所	加古川市ホームページにて公表 行政資料室、各図書館にて印刷物を閲覧できます
内容	<p>加古川市では、皆様が日々の生活の中で感じている「幸福感」や「暮らしやすさ」を把握し、今後の政策に反映させることを目的に、暮らしと幸福感アンケート調査を実施しています。</p> <p><b>■主な調査結果</b></p> <p>1. 幸福度『現在、あなたはどの程度幸せですか』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加古川市民の平均点は10点中6.82点（R6：6.85点）</li> <li>・約23%の方が8点を選択。約90%の方が5点以上を選択。</li> <li>・全国比では、8～10点の割合が高い点が特徴。</li> </ul> <p>2. 主観偏差値（日本における偏差値）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主観偏差値が60を超える（＝全国比で加古川市民が良好に感じている）カテゴリーは、「健康状態（76.9）」「文化・芸術（61.0）」「自己効力感（60.5）」「住宅環境（60.2）」</li> </ul> <p>3. 相関（幸福度との関係の強さ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幸福度との結びつきが比較的強いと考えられる（＝相関係数0.35以上）カテゴリーは、「健康状態（0.43）」「自己効力感（0.41）」「住宅環境（0.41）」「公共空間（0.40）」「地域とのつながり（0.38）」「文化・芸術（0.38）」</li> </ul> <p><b>■調査概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施期間：令和7年6月5日（火）～6月20日（金）</li> <li>・対象者：18歳以上の市民4,500人 （住民基本台帳から無作為抽出）</li> <li>・調査方法：調査票もしくは案内文を送付し、郵送回答又はインターネット回答により回収</li> <li>・回収標本数：1,635票（回収率：36.3%）</li> <li>・掲載HP 加古川市の地域幸福度（Well-Being）について <a href="https://www.city.kakogawa.lg.jp/soshikikarasagasu/kikakubu/kikakubukohoka/kakogawashinoseisakuzaisei/42841.html">https://www.city.kakogawa.lg.jp/soshikikarasagasu/kikakubu/kikakubukohoka/kakogawashinoseisakuzaisei/42841.html</a></li> </ul>
対象（参加者）	—
定員	—
参加費	—
申込先・方法	—



目的・背景 その他	市民が日々の暮らしの中で感じている幸福感や暮らしやすさを把握すること。
市ホームページ	掲載予定（11月下旬）
広報かこがわ	掲載しない



問合先

加古川市 企画広報課  
政策推進係 （担当：福田、澤田）

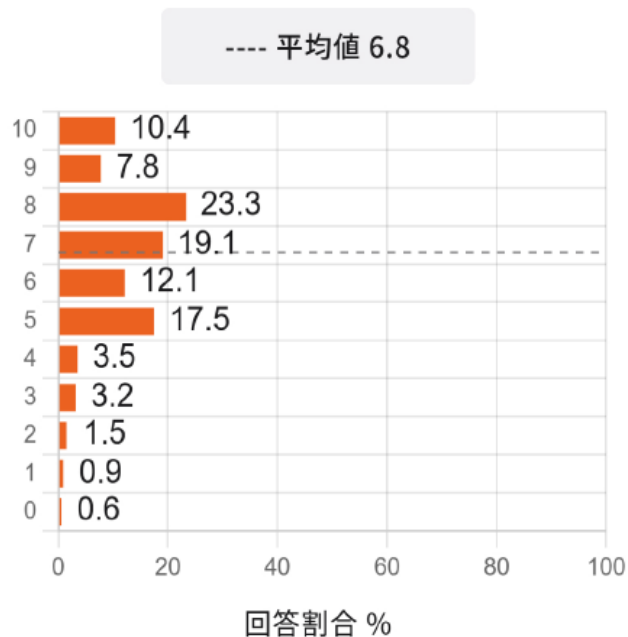
☎ 079-427-9113（内線2173・2176）



## ■幸福度(R7加古川市／R7全国)

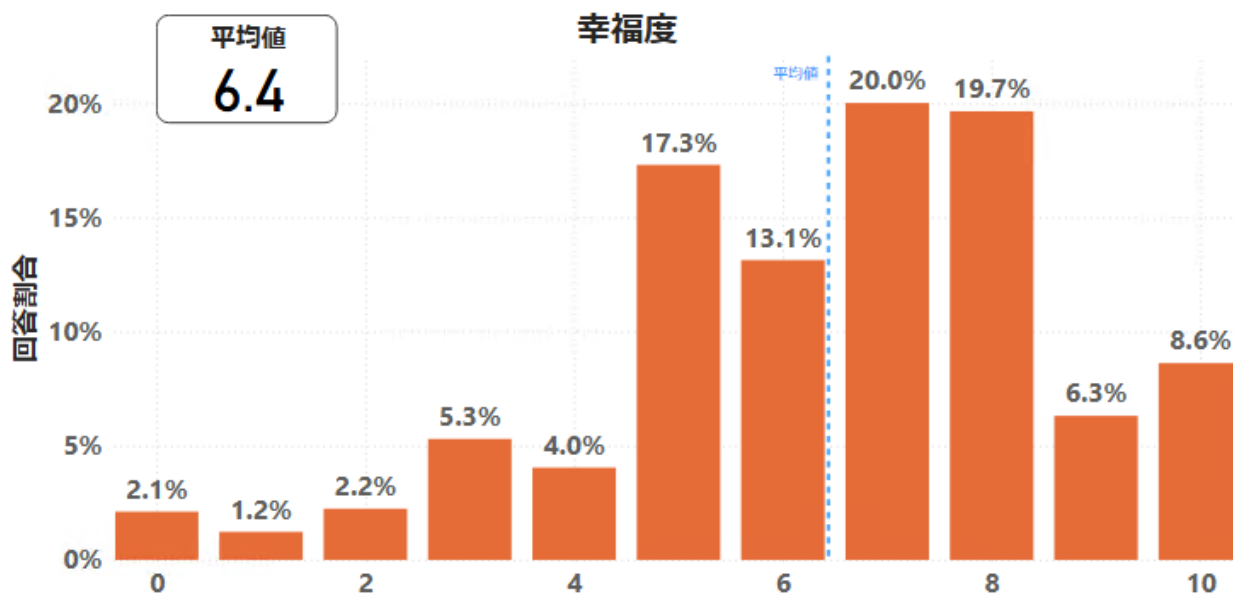
### ◇令和7年度\_加古川市

#### 幸福度



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

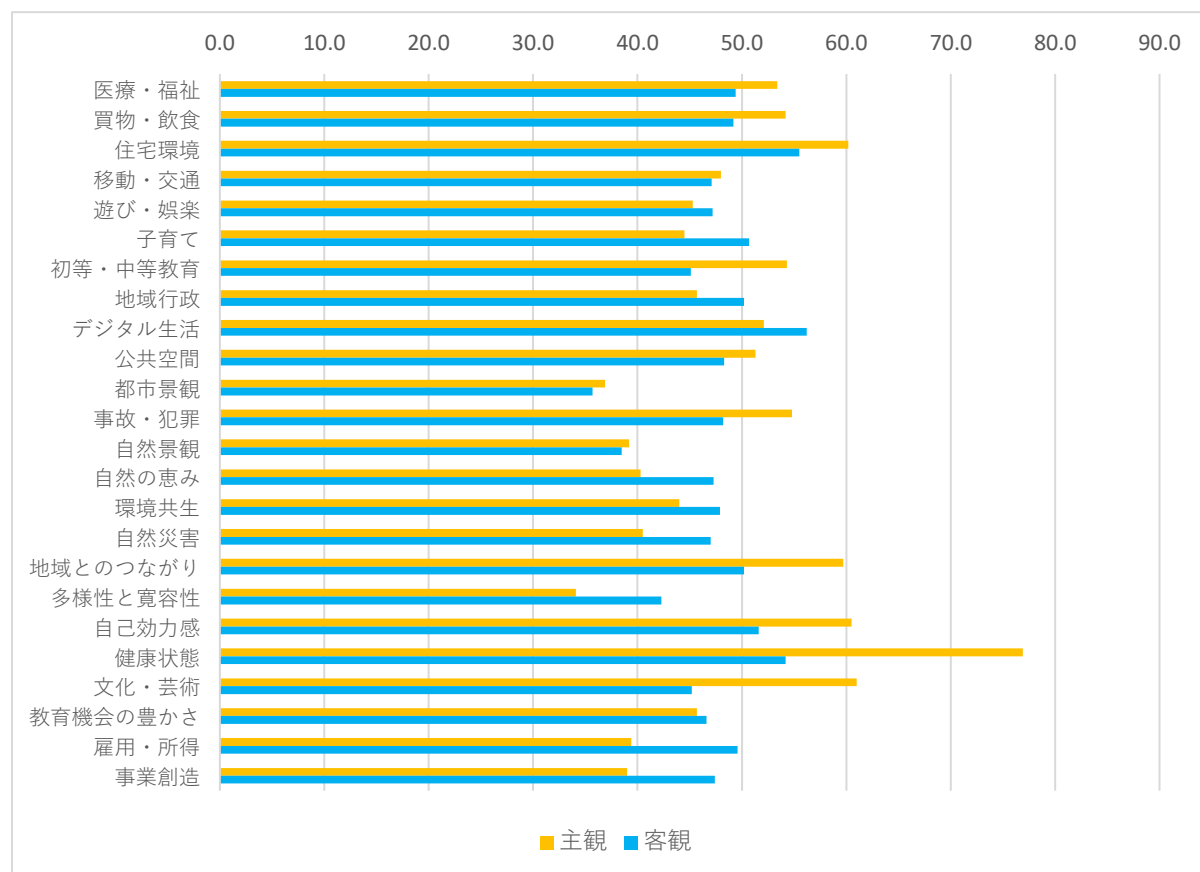
### ◇令和7年度\_全国



【出典】一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度(Well-Being)指標」

## ■偏差値(主観・客観)

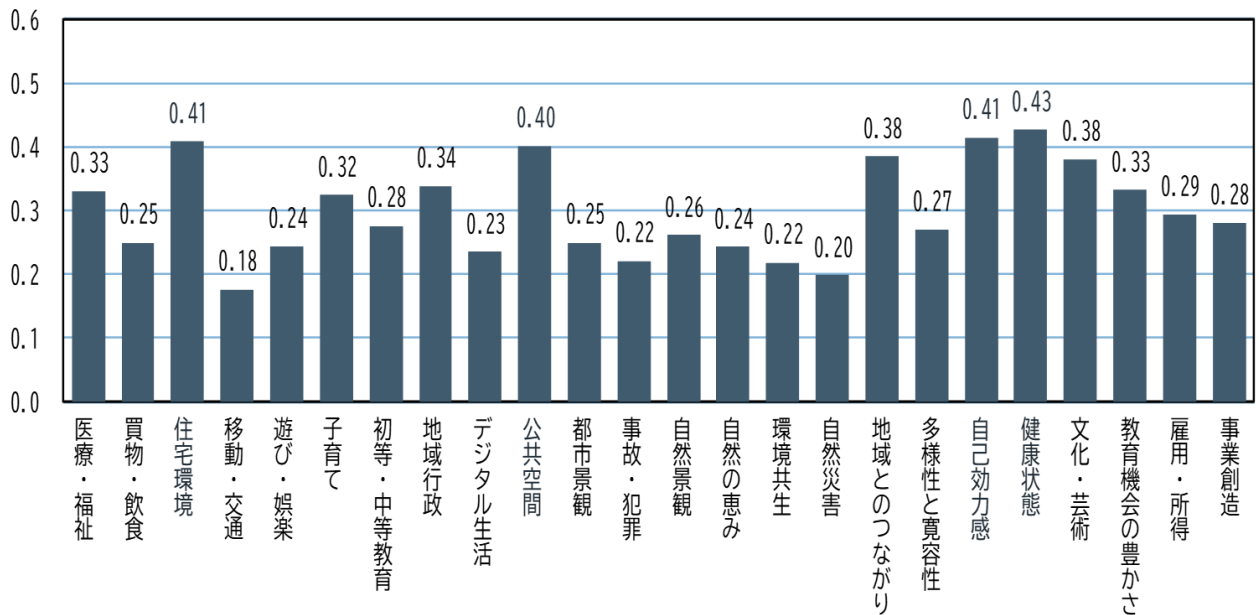
- ・「健康状態」「文化・芸術」「自己効力感」「住宅環境」の主観偏差値は60を超えている。
- ・「多様性と寛容性」「都市景観」「事業創造」「自然景観」「雇用・所得」の主観偏差値は40を下回る。



因子	主観	客観	因子	主観	客観
医療・福祉	53.4	49.4	自然景観	39.2	38.5
買物・飲食	54.2	49.2	自然の恵み	40.3	47.3
住宅環境	60.2	55.5	環境共生	44.0	47.9
移動・交通	48.0	47.1	自然災害	40.5	47.0
遊び・娯楽	45.3	47.2	地域とのつながり	59.7	50.2
子育て	44.5	50.7	多様性と寛容性	34.1	42.3
初等・中等教育	54.3	45.1	自己効力感	60.5	51.6
地域行政	45.7	50.2	健康状態	76.9	54.2
デジタル生活	52.1	56.2	文化・芸術	61.0	45.2
公共空間	51.3	48.3	教育機会の豊かさ	45.7	46.6
都市景観	36.9	35.7	雇用・所得	39.4	49.6
事故・犯罪	54.8	48.2	事業創造	39.0	47.4

## ■ 相 関

・幸福度は、「健康状態」「住宅環境」「自己効力感」「公共空間」「地域とのつながり」「文化・芸術」の順に相関が高い傾向にある。



因子	相関係数	因子	相関係数
医療・福祉	0.33	自然景観	0.26
買物・飲食	0.25	自然の恵み	0.24
住宅環境	0.41	環境共生	0.22
移動・交通	0.18	自然災害	0.20
遊び・娯楽	0.24	地域とのつながり	0.38
子育て	0.32	多様性と寛容性	0.27
初等・中等教育	0.28	自己効力感	0.41
地域行政	0.34	健康状態	0.43
デジタル生活	0.23	文化・芸術	0.38
公共空間	0.40	教育機会の豊かさ	0.33
都市景観	0.25	雇用・所得	0.29
事故・犯罪	0.22	事業創造	0.28